

学校名 杉並区立天沼小学校

記録者 森竹聡

開催日時	令和4年7月13日(水) 17:30～19:30
開催場所	天沼小学校 アリーナ
出席者	<p>【天沼中】 松尾校長、三石会長、生重委員、鹿野委員、清水委員、田中委員、9名 根岸委員、馬場委員、福井委員 (生重委員は天沼小委員兼任)</p> <p>【沓掛小】 浅見校長、近藤会長、石田委員、岡委員、小山田委員、川口委員、9名 二見委員 又木委員 坂本副校長</p> <p>【天沼小】 松野校長、高橋会長、井上委員、畝本委員、加藤委員、神谷委員、12名 今野委員、土屋委員、中川委員、森竹委員、吉田委員、川口副校長</p>
傍聴者	杉並区教育委員会より1名

会議内容(次第順)

○高橋会長挨拶

○各校の校長、運営協議会会長より委員紹介および特色ある教育活動の紹介

○五つのグループにわかれ、各校の「特色ある教育活動」により、どのような力がついているのか、どのような力が身につくことを期待しているのか。三校連携で期待する事、その他の情報共有を行い、まとめと報告を行った。

◆それぞれの学校が、地域の特性に合った特色ある教育活動をしていく中で、Give And Takeの精神が成り立つと良い。子どもたちがいつも与えてもらうだけではなく、天沼中生徒のレスキュー隊の活動のように、地域のために何かできないかという視点に立った学習を考えていってもいいのではないか。

◆特色ある教育活動により、児童生徒の「自主の力」をどう育てていくか、が重要。

そのためには、様々な「体験」を「体験」だけで終わらせることなく、体験後の掘り下げや内省の機会をもっと作り、子どもたち自身の判断基準を蓄積、次の体験につなげることが大事なのではないか、という意見が出た。

◆期待する学びは、学校内外において小学校低学年から自分の意見を発言し続けることである。三校が連携できることは、二つある。ひとつは継続性のある直接経験である。タブレットPCで調べることが容易になったが、例えば、畑で作物を育てる・伝統芸能や文化にふれるなどの直接経験からの学びを続けることである。

もうひとつは、教科学習以外に個々の興味関心に応じた学びの場の提供やその拡大である。ひとつのことを深く学ぶことに加え、児童生徒に新しい経験や気づきを与えるような広がる学びの提供である。

◆三校とも読書に力を入れている事が分かった。

数年前に三校の司書で選定した「9年間で読んで欲しいAKAおすすめの110冊リスト」がそれ以降更新されていないので、これを機に再選定してみるのはいかがでしょうか？中学生が小学生に読んで欲しい本を選ぶのも面白いのでは。

◆キャリア教育について、小学校から中学校へのつながりが感じられる点、また、読書について、三校とも自分たちで「考える力」の獲得を重視している点もあらためて確認ができた。

また、天沼中のボランティア活動である「杉並区中学生レスキュー隊」についての話し合いの中で、「地域と防災」についてを三校合同のテーマとしてはどうか、という共通認識が生まれた。

次回以降の会議日程

日程	第5回 令和4年8月29日(月) 10:00 … サマーワークショップ(熟議) 会場:天沼小アリーナ
	第6回 令和4年9月14日(水) 17:15 … 会場:天沼小学校 学校運営協議会室